



安寧

兵庫縣姫路護國神社社報
 「安寧」第十一号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒671-0023 姫路市本町一八
 電話 〇七九一三四一〇八九六
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なところ

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

英靈の言乃葉

戰場より愛児に

陸軍伍長 細川義男 命

昭和二十年七月十五日

フィリピンレイテ島カンギボット山にて戦死
 福井県坂井郡川西村出身 三十五歳

ヨシナリサン。オトウサンカラダ、オマヘハゲ
 ンキデガクカウヘイツテキルコトオモフ。

オトウサンノキルトコロニモ、フィリッピンノ

コドモタチガ、ニッポンノヨイコドモタチニマ

ケナイヤウニイツシヤウケンメイニベンキヤウ

シテキル。

イマニッポントフィリッピントハナカノヨイク

ニダ。

ソシテニッポンノヨイコトヲナラツテキル。

ニッポンジンハヨイニイサントナツテ、リッパ

ニナツテオシヘテヤラネバナライ。

オマヘモヨイコドモニナルヤウオトウサンハイ

ノル。

オトウサンハニッポンノヨイヘイタイサント

ナツテ、ゲンキデオクニノタメツクシテキル。

ケフハサヤウナラ。

細川ヨシナリ



秋季慰霊大祭



十一月二日秋季慰霊大祭が、秋晴れの
もと厳肅に執り行われた。

泉和慶宮司は、御尊父・名誉宮司泉慶雄
様が十月二十八日に御逝去されたため、
服喪中につき、兵庫縣神社庁姫路支部長、
広畑天満宮宮司三木通嗣様が臨時齋主を
御奉仕され、大川久夫総代会長が大祭委
員長を務めた。

国歌斉唱に始まり、神饌が供され、真
千家淡交会播磨支部、播磨青年部により
抹茶が献じられ、三木通嗣宮司が祝詞を
奉上了された。

次いで祭文が奉じられ、姫路市民合唱
団により、「慰霊の歌」「里の秋」が奉納
された。その後、遺族代表をはじめ来賓、
参列者が玉串を奉りて拝礼し、大祭委員
長が挨拶を述べて、秋季慰霊大祭は終了
した。

名誉宮司様逝去さる



先代宮司、名誉宮司泉 慶雄氏は十月
二十八日享年九十二歳にて逝去された。
長年に亘って兵庫縣姫路護國神社の祭
祀維持に貢献された。告別式は神社葬
として総代会長の大川氏が葬儀委員長
として携われ、靖国神社からは山口権
宮司も駆けつけられ、四百人を超える
方がお見送りされた。祭主は兵庫縣神
社庁姫路支部三木支部長が務められ、
市内神職の方々が奉仕された。今後は
天上から兵庫縣姫路護國神社に大きな
お力を下さるでしょう。



告別式の様子

神社年表と略年譜

大正十一年十二月十四日生まれる
十一男四女の七男
昭和十九年
シンガポールへ徴用差遣



河和海軍航空隊の頃

- 昭和十九年 愛知県知多郡美浜町 河和海軍航空隊にて 航空整備兵の養成を受く
- 昭和二十年六月 兄 春雄 戦死
- 昭和二十年八月 川西航空にて終戦を迎える
- 昭和二十年九月 兄 秀夫 沖繩にて自決
- 昭和三十一年一月 父 慶太(よしもと) 逝去
- 昭和三十二年二月 兵庫縣姫路護國神社宮司就任 (三十六歳)
- 昭和三十五年十一月 合祀 概了奉告臨時大祭
- 天皇陛下より幣帛料御下賜
- 昭和四十年十二月 終戦二十周年臨時大祭
- 天皇陛下より幣帛料御下賜 (この後十年ごとに御下賜)
- 昭和四十五年四月 御創建三十周年記念事業完遂
- 境内整備、会館建立
- 昭和五十年十一月 終戦三十周年臨時大祭
- 天皇陛下より幣帛料御下賜
- 昭和五十一年三月 全国護國神社三十周年記念表彰



大祭挨拶風景

- 昭和五十一年十月 兵庫縣神社廳設立三十周年記念表彰
- 昭和五十六年五月 天皇皇后両陛下下り幸啓の 御饗料御下賜
- 昭和六十年十一月 終戦四十周年臨時大祭
- 天皇陛下より幣帛料御下賜
- 昭和六十二年十一月 御創建五十年記念大祭齋行
- 平成元年二月 神社本庁規程表彰
- 平成二年十一月 御創建五十年御修造事業 本殿以下御屋根替境内 整備事業 完工奉祝祭
- 平成六年五月 天皇皇后両陛下下り幸啓の 御饗料御下賜
- 平成六年六月 神職身分浄階一級
- 平成七年十一月 終戦五十周年臨時大祭
- 天皇陛下より幣帛料御下賜
- 維持基金創設
- 平成十三年五月 神社本庁設立五十五周年記念表彰
- 平成三十三年九月 本職を免ずる
- 十一月 名誉宮司の称号を授く
- 平成三十五年十月二十八日 午後四時九分 享年九十二歳にて帰幽

新年万灯祭

社頭風景



2000灯をこえる奉納された提灯

平成二十六年の元日は例年より暖かく穏やかな天候で新年を迎えた。若者やカプルの参拝も目立ち、例年より参拝者が増えていたようだった。九段の靖國神社では十二月二十六日に安倍総理が参拝された影響で、三ヶ日で約二百四十五万人の人が訪れた。例年の八倍の人数だそう。その、安倍総理の影響が姫路にも伝わってきたのではないかと思われる。実際に「安倍さんが参拝されたので、

私も行かなくてはと思い参拝に来ました。」という女性がいた。まだまだ少数ではあるが、護國神社と靖國神社の繋がりが理解されてきているよう。お正月は三ヶ日も多くの人が参拝し、参拝の列が夕方になるまで途切れることがなかった。今後ますますに多くの人に参拝してもらい、ご先祖と繋がっている、ご英霊と繋がっている、日本と繋がっているという意識をお正月に感じてもらえればよいと切に願う。

奉賛会新年祈願祭

一月十三日は奉賛会の新年祈願祭が執り行われた。三宅会長と共に参加者一同新年の祈願を行った。直会では昨年、執り行われた伊勢神宮での式年遷宮の様子のDVDが上映された。その後、大阪よりアーティストの山口采希さんをお招きして、ミニコンサートが開催された。山口さんは、教育勅語を元にした「大切な宝物」を作詞・作曲。現代の日本人が忘れがちで、昔から受け継がれてきたものを大事にしたいという思いを込めてこの曲を作られたそう。その他にも、「愛国行進曲」「汽車ぽっぽ」「月火水木金金」などが披露された。平成生まれの山口さんの元気な歌声に会場は熱気に包まれた。

その様子は、兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会のホームページからご覧になることが出来ます。

山口さんの元気な歌声



新年祈願祭の様子

建国記念の日を祝う会

神武天皇即位から二千六百七十四年を迎えた二月十一日、姫路護國神社にて「建国記念の日を祝う会」が開催され、二百名以上の参加があった。今年は、姫路郷友会・霊友会・隊友会・日本会議の四団体によって組織された実行委員会による開催であった。

午前九時より講演会が開会。建国にまつわるテーマで三名の講師が講話をおこなった。

泉和慶・宮司は、日本人と神々のつながりが神話に書かれており、神話を読むことで先祖達から受け継いだ世界観があることを知り、現在の自分達の存在を確信できるものであると話された。

小田幸昌・兵庫県隊友会副会長は、自身が連隊長時代に経験したイラク復興支援の自衛隊派遣について講話。派遣先に向かう若手隊員、彼らを支える奥様を間近に見てきて、建国以来の民族としての魂が受け継がれていると確信したという。

三木英一・日本会議兵庫中・西播磨支部長は、徳育を通じて人間力を高めていくことの必要性とともに、日本や日本人であることに子供たちが誇りを持てるようにするためには、何より教育の力が大切であることを話された。

また、参加者による決意表明では、ご皇室の弥栄とわが国の発展に自分ができることから始めていきたい、との強い思いが披露された。

参加者は本殿前に移動し、午前十一時から神事がおこなわれた。国会議員や県・市議会議員、陸上自衛隊姫路駐屯地司令、姫路市遺族会や兵庫県神社庁の役員が来賓として列席。

泉宮司の祝詞奏上のあと、玉串奉奠がおこなわれた。

奉祝式典では、福本正明・実行委員会会長（姫路郷友会長）の挨拶があり、昭和二十三年占領軍により「紀元節」が消され、昭和四十二年に「建国記念の日」として復活するまでの紆余曲折を話された。

天田博子・実行委員会副会長（霊友会支部長）からは、わが国の年中行事を通じて日本人としての心を取り戻すことの必要性を述べられた。

参加者全員で「紀元節の歌」を斉唱し、万歳三唱をおこなった。多くの日の丸が境内になびいた。

式典終了後には、霊友会のみならずにより、あつたかいうどんとケーキセットの販売がおこなわれた。参集殿で談笑しながら、祝日のひとときを神社で過ごした。



奉祝式典

講演会

「戦士の証言」

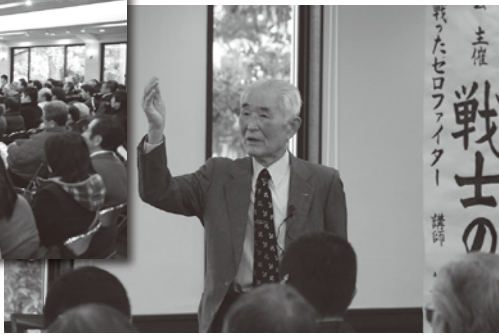
一月十二日参集殿にて「戦士の証言」と題して、元海軍零式戦闘機パイロットの笠井智一氏をお招きして講演会を実施した。丁度映画「永遠の0」が公開されているタイミングと重なり定員百五十席は満席となり、立ち見する聴講者まで現れる程、盛況であった。笠井氏は今年八十八才のご高齢でしたが崇敬奉賛会運営委員長の三木英一氏の質問に応える形で講演された。『聴講者の顔を見ながら話したい』と立姿で力強く話される態度に少年時代に鍛えられ、幾多の空中戦で死線を乗り越えて来られた戦士の証言に、現在失われつつある、先人の「国を想う」気概を聴講者全員が心に酌み、改めて護國神社に祭られている英霊について敬意を持つて戴くことができた。

笠井氏は大正十五年、篠山市の出身。十六才で第十期甲種予科練習生に合格。十七才で飛行練習生に、然し戦局は我に利あらず、特に搭乗員の不足は深刻となり、短期急速養成で昭和十八年十一月には戦闘機操縦生として徳島基地に、十九年には松山基地で練成中、同年三月サイパンに進出、撃墜王の杉田庄一上飛曹の列機となる。五月ハルマヘラ島（インドネシア領）次いでヤップ・グアム基地からサイパン沖の米艦船攻撃に参加するも敵襲で全搭乗機を失い七月陸攻機でパラオ・ミンダナオ島ダバオに脱出、次いでヤップ島からB-24爆撃機を迎撃中被弾し、不時着後救助され、セブ島（レイテ島の西）に進出。米軍のレイテ進攻時は神風特攻隊の直援機として特攻機が突入するのを目撃。同年十二月本土へ帰還するまでは零戦に搭乗。松山基地で編成された第三ラン搭乗員のみで編成された第三四三航空隊（通称「剣」部隊）からは新鋭戦闘機紫電改に搭乗、終戦まで本土防空戦に活躍された。公認撃墜数一〇機。

「靖国神社は笠井様に取ってはどんな存在でしたか」と伺ったところ「我々、兵隊は、戦死したら靖国で合おう、というのが合言葉であり、祭られることが憧れでした。」とも言及された。

講演会の様子は当神社のホームページにてご覧になれます。「戦士の証言」はシリーズ化していく予定です。（運営委員 曾田孝一郎）

笠井智一氏



満席の講演会場

吟道賀堂流碑と英霊顕彰

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

理事 儀部賀堂

ソチ冬季五輪では日本選手が世界の強豪と競い合い、「日の丸」の国旗を掲げての声援に応えて素晴らしい演技を見せてくれました。なかでも生まれ育った仙台で東日本大震災に遭い、以来スケートを続けられることへの感謝と故郷の復興を願う思いを胸にカナダで武者修行、見事な演技で金メダルを取り「日の丸」を纏ってリンクを一周して深く頭を下げた後で「復興を支援してくれた全ての人に恩返しできたかな」と語る羽生選手は爽やかでした。「金メダルをとりたい」との強い思いの他に応援して下さる人たちへの感謝と故郷復興への思いが厳しい修行とソチでの重圧にも負けなかった一因と思います。

何時の時代でも人は家族・故郷・祖国など愛するもののために頑張る時に一番力を発揮し、美しい。祖国日本、故郷を誇りに思い愛する家族を守るために戦って下さった英霊に感謝し、思いを馳せて後世に伝えていくところが護國神社です。私事を記して僭越ですが、吟道賀堂流はこの姫路護國神社境内東南の聖地に流祖の祖父儀部賀堂を顕彰する賀堂流碑を建立させて頂き、春分の日に流碑祭を執り行っております。また春季慰霊大祭では大日本敬天社早淵流と尺八伴奏による吟詠扇舞「護國の英霊に捧ぐ」を奉納しております。

実現出来ず、船場小学校校長を勇退した重鎮田村賀峰は当流発祥の地に流碑を建立して詩吟文化を根付かせたいとの強い思いで姫路城周辺を訪ね探したが、国の史跡地で文部省の許可が下りないことが判り他を探していた処、先代の泉慶雄宮司との出会いから御理解と許可を頂けて、昭和三十八年に永年の悲願がかなって流碑を白鷺城下の聖地に建立、会員一同の歓喜と感激のなか厳肅に除幕式を行なえました。



賀堂流は姫路藩の吟詠を継承する漢学者西村宣孝に師事した流祖が研鑽を重ねて豪壮且つ幽麗な吟詠法を確立して昭和九年に創流、今年八十年の節目の年を迎えました。流祖はレコードとラジオ放送や各地での講演で吟道普及に努めたが、昭和十七年再度の皇軍慰問吟行中に中国山西省で急逝し靖國神社と姫路護國神社に合祀されました。戦後の混乱期を経て賀堂流碑建立が提案されたが

会輪番制の月例清掃奉仕で多くの会員が流碑を当流の象徴、心のよりどころとして身近に感じて更に斯道に精進して社会人心の向上に寄与し、神社に足を運んで流祖を始めとする護國の英霊に感謝し顕彰してもらいたい、御霊安からんと祈念して参りたいと思っております。

近代吟詠は江戸の昌平黌、豊後日田の広瀬窓の咸宜園や各地の藩校、私塾で精神修養と勉学の助けとして漢詩を朗吟したのが始まりであり、幕末の志士の間で盛んになりました。姫路でも藩校好古堂や頼山陽も数回にわたり教えに訪れた河合寸翁の私塾仁寿山黌で吟詠されていたことであり、姫路城下護國神社はこの姫路藩の吟詠を継承する賀堂流ゆかりの地です。吟界の環境も厳しく会員の減少と高齢化が進んでいるが、日本文化を担う伝統芸能、志を朗詠する吟道を次世代に継承し、国旗・国歌を大切にして英霊の遺徳を語り継ぎ、地域文化の向上と護國神社の護持に少しでも寄与出来ればと思っております。

シリーズ 英霊の戦場(二)

フィリッピン(比島) 攻防戦の内
レイテ地上決戦

一 レイテ島について

(面積と地名：兵庫県と対比した別図参照)

昨年十一月九日巨大台風が比島中部を襲い、レイテ島に甚大な被害をもたらした。この島で昭和十九年暮れ日米が激闘を繰り広げ、多くの御英霊の遺骨が眠っている島でもあります。地形は南北やや西より荒々しい山脈が東西を分断しており、島の北半分が開けて町村が散在し特にレイテ湾沿いの海岸に島民が集中、この北側が戦場となりました。山地の植生は熱帯広葉樹林に覆われ、やや密林に近い、また農村地帯の田畑は鬱蒼とした樹林に囲まれ、その中に粗末な高床式家屋が散在しています。

二 戦場の経緯(概要)

レイテの守備に当たっていた精鋭第一六師団は、当初は上陸した敵戦力を少しでも減殺させる方針により縦深陣地を構築中であつたが、在島期間が短く大半は未完成であつた。又米軍の支援を受けたゲリラ部隊に因る治安悪化を阻止していた。

台湾沖航空戦で米軍機動部隊を殲滅したとの大戦果(誤報)に振り回された大本営と南方軍は比島防衛に当たってはルソン島で決戦する作戦であつた。然し日本軍はレイテに上陸した米軍は大打撃を受けた部隊が、大統領とマツカサー將軍の政治的思惑で上陸したものと判断し、急遽決戦をレイテ島に変更、然し、日本軍上層部の誤つた先入観が悲惨な結果を招く戦場となつてしまつた。

三 戦闘期間

昭和一九年一〇月一八日(上陸は二〇日)〜二〇年三月二三日(但し残存部隊は爾後終戦まで戦い続けた)。レイテで決戦に移行した結果、増派された四箇師団の内、一箇師団のみ戦力を保持して上陸出来たが、制海・制空権を失つた後の輸送船団は大半が撃沈され、火砲・弾薬・食糧等は海没、続く補給船も多くの将兵と共に沈められ三箇師団及び一箇旅団は小火器のみを持つた戦力でしかなかった。圧倒的火力に勝る米軍に対し、勇猛果敢に戦つたものの補給が続かず、為す術もなく、最後はカンギポット山(図参照)周辺に拠点を築き、空爆と火砲に支援された討伐部隊及び米軍支援のゲリラ部隊と戦いながら大半が戦病死し、僅かな将兵のみが終戦を迎えることができた。

四 参加将兵と戦死傷者

(日本軍は正確な資料が消滅し「約」である)
日本軍：八一九〇〇名
戦死七九五〇〇名 転進等二四〇〇〇名

米軍：二五七七六六名(上陸一〇四五〇〇名)
戦死 三五〇〇〇名 戦傷 一二〇〇〇〇名

五 姫路護國神社に祀られている英霊柱

英霊の所属部隊と戦死日付から大半が増援された部隊に配属されていたことが判明。

陸軍：五九七柱 海軍：二四柱
軍属：一四柱 計 六三五柱

六 多くの英霊が亡くなった戦場の概要

(文末の柱数は姫路護國神社に祀られている英霊ブラウエン：陸軍飛行場(未舗装滑走路3本)※地図③ 英霊の中に飛行場勤務者が多く、米軍は上陸後早期に偵察機や爆撃機用として使用すべく、争奪戦を展開し烈しい銃撃戦となる。その後、日本軍は奪回や滑走路使用を阻止すべく、空挺部隊(台湾の高砂義勇軍も参

加)や地上部隊を突入させ、烈しい攻防戦が展開された。二五柱

オルモック：日本軍補給港で軍司令部所在地※地図②

東から山脈越えて日本軍を包囲しつつあつた米軍は殲滅を狙つて同港に逆上陸を敢行。迎え撃つ日本軍と熾烈な銃撃戦を実施。(現在でも銃撃戦の凄まじさを物語る建物が戦跡として残されている)組織的戦闘の出来なくなった軍はカンギポット山周辺に拠点を築き、持久戦に移行。 六八柱

カンギポット山(日本名：歓喜峰)

同山の付近に集結した日本軍は第一六師団長指揮下で戦つたが弾薬・食糧も尽き多くの英霊は砲撃と栄養失調で戦没したものと推定。戦没地詳細不明、終戦後八〇〇名の将兵が収容。 二六〇柱

他に二〇〇余柱の戦没地も一部は地名が判明しているものの大半は「同島内」の記録しか無く不明で、遺骨収集が困難な要因となつている。

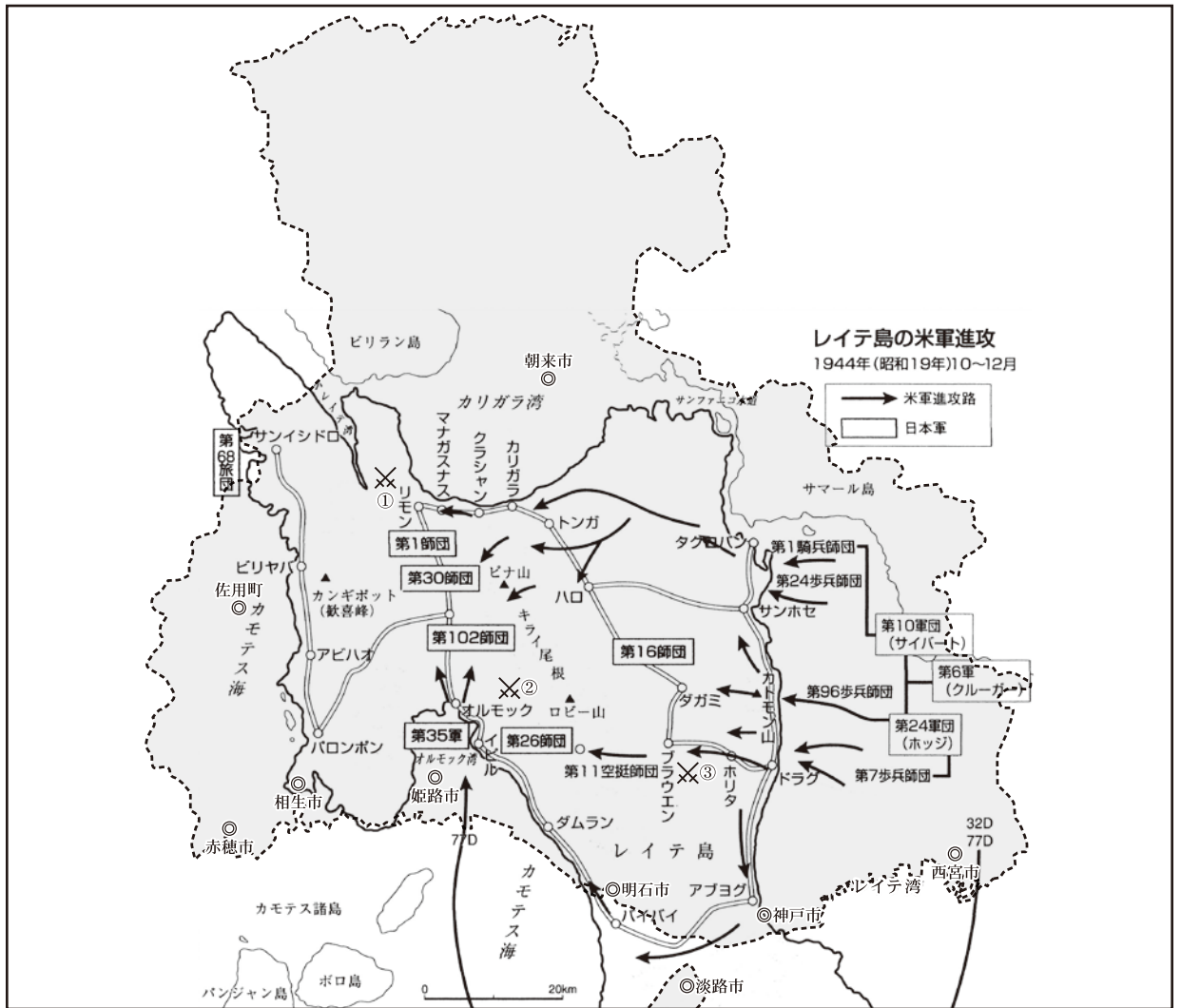
リモン峠(日米激戦地)※地図①

米軍は命令の変更で攻撃を中断している間に、日本軍第一師団が峠を数日早く占領、巧みな陣地構築と将兵の敢闘精神により、熾烈な砲撃に支援された米軍の猛攻を一ヶ月半阻止し、その強靱力と戦術については、米軍将兵からも賞賛された。

七 レイテ島民の戦後対日感情

第一六師団長牧野四郎中将(八月一〇日頃自決)は在島すると人道的軍政を敷き島民を大切に取扱つた。戦闘が始まると島民の安全を図り避難させ(島民の話)、又増援された部隊も軍規を守り、島民には危害や食糧の強奪等を禁止したので、日本軍に対する反感は少ない。中には懐かしむ島民の方が存在した。(平成一〇年取材)

台風被害復興に米軍と自衛隊が協力して支援していた光景を見られた英霊の方々は、多くの島民に笑顔が早く戻る事を願っていることを信じます。



地図出典：太平洋戦争の戦場：図説 太平洋戦争16の大決戦 フィリピン防衛戦 P121の地図（太平洋戦争研究会編 森山 康平著）

兵庫県の地図に合わせた戦場の大きさ

総代会の記録

平成二十五年八月三十日に総代会総会が開催され、前年度決算、秋季大祭が議題となりいずれも原案通り承認された。なお、岩谷総代会長が退任となり、役員が改選され新役員が就任された。

今年四月よりの任期としてブロックより副会長を東播磨（迎山正明氏）西播磨（岸野弘氏）但馬（大川久夫氏）の三名が推薦され承認された。岩谷会長より会長を退任したので副会長三名と宮司で選考し推薦してもらいたいと発言があり承認され直ちに選考を行い、大川久夫氏を会長に推挙、総会で承認された。

但馬地区からの副会長は大川氏が兼任となり、当面副会長は二名とする。監事については但馬のみ新任、他ブロックは留任となった。

護國神社総代会役員

（平成二十五年四月～二十八年三月）

役職名	氏名
一 総代会会長（但馬）	大川久夫
二 総代会副会長（東播）	迎山正明
三 総代会副会長（西播）	岸野弘
四 総代会監事（東播）	岡本勝弘
五 総代会監事（西播）	井川隆
六 総代会監事（但馬）	橋本幹夫

日誌抄 二十五年十一月、二十六年三月

- 平成二十五年
 - 十一月百 秋季大祭参列七百名
 - 十一月百 陸上自衛隊姫路駐屯地訓練展示へ出向
 - 十一月百 城巽地区夢プラン神社参拝
 - 十一月百 加古支部大麻頒布式尾上神社へ出向
 - 十一月九日 日本会議親子で学ぼう講座①
 - 姫路遺族会総会
 - 平福分会慰霊祭
 - 崇敬奉賛会運営委員会開催
 - 十一月十五日 佐用慰霊祭
 - 十一月十八日 全国神社関係者大会伊勢神宮へ
 - 十一月二十五日 姫路地区神社関係者大会総社へ
 - 十一月二十八日 新穀感謝祭伊勢神宮へ
 - 十二月百 建国祭打ち合わせ会開催
 - 十二月百 鳥居前絵馬完成
 - 十二月百 正月提灯架設作業開始
 - 十二月百 日本会議親子で学ぼう講座②
 - 十二月百 茶道淡交会青年部式典へ出向
 - 十二月百 崇敬奉賛会運営委員会開催
 - 十二月百 年末清掃植樹百名参加実施・自衛隊年末懇親会参加
 - 十二月百 新年万燈祭試験点灯新聞社取材
- 平成二十六年
 - 一月一日 歳旦祭
 - 一月一日 姫路剣道連盟祈願祭
 - 一月百 出初式消防車清祓
 - 一月百 会社事始祭
 - 一月百 「戦士の証言」講演会・日本会議新年祈願祭
 - 一月百 崇敬奉賛会新年祈願祭
 - 一月百 姫路市遺族会参拝
 - 一月百 姫路郷友会隊友会合同新年会
 - 一月百 建国祭300名参加
 - 一月百 朝来遺族会で宮司講話(粟賀)
 - 二月百 伊勢神宮奉賛会解散式
 - 二月百 全国護國神社会靖国神社出向
 - 二月百 篠山市城北遺族会参拝
 - 二月百 崇敬奉賛会運営委員会開催
 - 二月百 佐用郡幕山区慰霊祭
 - 二月百 神社総代会役員会開催
 - 二月百 賀堂流碑祭・祝賀会キャッスルホテル出向
 - 三月百 神社総代会総会開催

崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた

英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで

いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し

そして汗をかき、

涙を流しましょう

奉賛会事務局
〒670-0012
兵庫県姫路市本町118
電話 079-224-0896
<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

崇敬奉賛会申込書

ご希望の方はこの用紙に必要事項をご記入の上、このままファックスしてください。

届きましたら会費入金用紙を送ります。
入金が確認できましたら、会員証、パッチをお送りいたします。
会員の方々には、春秋の大祭、各種催し物のご案内を優先して差し上げます。
また、新年(成人の日)には会員安泰祈願祭を執行して会社繁栄、健康祈願を致します。
ぜひ、この際ご入会下さい。

団体法人賛助会員(年会費一万円)が新設されました。ぜひご入会下さい

ご氏名(会社名) _____

ご住所 _____

電話番号 _____

ファックス番号 _____

メールアドレス _____

ご希望の種別に○印をつけて下記へファックスして下さい。

会員種別	年会費	希望種別
団体法人会員	5万円	
団体法人賛助会員	1万円	
個人会員	1口3,000円	□
終身会員	5万円	

ファックス 079-224-0885